12 4

12

H

82 1日(金) 7 30 33 11 20 10 1 31日 820 \ 10 10 800 3目 う大河川港(当時は泉川 井照芳さん(70)は78年5 拠点だった。現会長の岩 と呼ばれた)が開かれ、 津遺跡」で見つかった遺 京のある大和を結ぶ物流 旧木津町は大阪湾と平城

の山城跡「鹿背山城跡」は早ければ来年、国史跡に指定される見通しで、を学び、文化財の意義を発信してきた。2001年から整備を続ける中世 8年の発足から40周年を迎えた。市内を流れる木津川が水運の要衝だった 長年の奮闘が結実する。 ことを示す遺跡が住宅地に開発されてしまったことを教訓に、地域の歴史 木津川市を拠点とする市民団体 「木津の文化財と緑を守る会」 が197

木津川 「守る会」発足40年

時代、「泉津」とい川水系の木津川には

物の展示会へ出かけ、

遺跡がなぜ重要なのか、

町内の約50人で同年8月 と呼びかけ状を出した。 とに上津遺跡を守りたい えられ、来場者名簿をも ら「重要な遺跡」と聞く。 同時に宅地になるとも教 査した町教委(当時) だが、すぐに自問する。 「守る会」は発足した。 四つの研究部会で町の歴 った。 ともできない。町長や町 自分たちで説明できな いないと文化財は守られ 議会に保存の要望書も出 したが、開発は覆らなか い。町の人々を動かすで (岩井さん)と、 「歴史が分かって

史を学び始めた。 福寺の出城だったと考え 西350以、南北300 段状に続く曲輪などが東 が発見される。主郭と階 がに広がる 鹿背山城は、 に広がる丘陵地に山城跡 b世紀後半には奈良 ・脚 この年の秋、泉津の南

義 年から月に2回、 城の方が素晴らしい。我 ことで訪れた。 山城跡。転機は2000 々が世に出そう」。翌01 に分け入り、見学コース 余良県の城跡を見学した 山城研究の定番とされる とはいえ、ほぼ無名の 会恒例の歴史探訪で 「鹿背山 、荒れ山

史跡として申請、 対し、早ければ7月に国 実現。市教委は文化庁に 発掘調査の実施を訴え 刈り、碑や案内板を建て 月に指定を受けたいとす 講演会を開き、市教委に る。城跡の模型を作り た。調査は8~16年度に 、来年2

0回に達する。 率いる同 し、2月2日には第30 ほど前から毎週に増や た、かつての特産品「木 くりし、40周年記念誌と 補助金40万円余りをやり 会費(1人1500円 承しか残っていなかっ 絶えていた。今回は、伝 出したきり、資金難で途 (全台))を発行した。 し、木津川市と府からの て会報「泉」の第2号 会報は79年に創刊号を 4回の文化講座なども開 きにわたった大河川港の 9・8908)。他に年 井さん (090・512 で販売中。申し込みは岩 存在を世に出したい」と

(別に送料100円)

泉 第2号を900

会の出発点である「上津遺跡」に、旧木津町が建立した石碑。 (左から)会長の岩井照芳さん、事務局長の後藤啓治さん、会計 の平瀬義治さん。後藤さんが手にするのは会報「泉」の第2号

の整備を始めた。 竹木を切り払い、草を

と喜ぶ。 現在の会員は約8人。

広がる。年10万円ほどの 岐阜や兵庫など府外にも いた成果を特集してい あってのもの。岩井さん まつわる古文書を読み説 木津晒も木津川の水運 「今後は泉津という3

おいても重要な意味を持 られ、大和との関係史に 城の名が売れてほしい」 ん(74)は「全国に鹿背山 会事務局長の後藤啓治さ

津晒」という麻織物に

2011年に製作した鹿背山城の模型。府立山城郷土資料館 で見ることができる ―いずれも木津川市で